

## 気温と風

### 気温

有峰は標高が約1,000mあります。ふつうの大気中ではこの高さでは地上より約6.5度下がります。これを気温減率といい、この場合は6.5℃/kmというわけです。有峰に限らず山麓では気温減率がいつも同じというわけではなく、山によって季節による増減があります。例えば栃木県の日光では2月～3月に気温減率が大きくなる傾向があります。

有峰では1994年のデータから見ると年平均の気温減率は6.8℃/kmで、2月～4月にかけて大きくなる傾向がありました。いづれにしても有峰は平地の富山市より平均6～7℃気温が低いため冬季(12月～2月)は気温が0℃を超えることはありません。また観測期間を通しての最高気温は29.2℃、最低気温は-17.7℃でした。

### 高いところが暖かい？

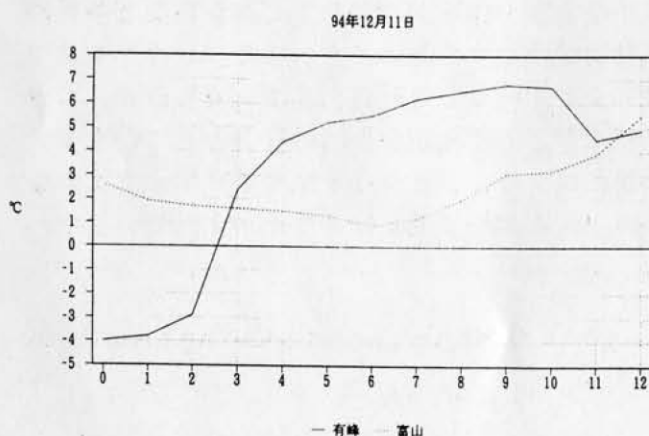


図. 有峰が富山より高温になった例

ところで、ふだんは平地より気温が低い有峰でときどき気温が高くなることがあります。1994年9月～1995年8月の間、早朝の4時～6時を中心にして19日間観測されました。中でも12月11日午前7時には平地より5℃も高くなりました(図)。

気温が逆転する現象はこれくらいの高度の他のいくつかの地点でも観測されています。

### 風

年平均風速は2.9m/秒で、平地より少し風が強い程度です。平地では春季(3月～5月)がほかの季節より風が強いという特徴がありますが、有峰の場合、冬季(12月～2月)がほかの季節より風が弱いという結果になっています。

### 谷から吹く風

よく晴れておだやかな日、海岸では日中、海から陸へ「海風」が吹きます。そんな日には山麓では「谷風」が吹きます。この谷風の始まる時間と終わる時間を調べてみると表のようになりました。

谷風は早く日が昇り、遅く日が沈む夏には早く始まり、終わる時間が遅いことがわかりました。

	谷風開始時刻	谷風終了時刻
春(3～5月)	10時	19時
夏(6～8月)	9時	19時30分
秋(9～11月)	10時30分	19時

表. 谷風開始終了時間

吉村 博儀(よしむらひろよし)

## 豊かな緑

### 植物の豊庫

大きな湖とそのまわりに広がる緑の森のボリュームの大きさは、圧巻です。ブナやミズナラ、クロベなどの大木からなる素晴らしい自然林が、広く分布しています。また、林の中に流れる沢や湧き水に潤される湿地が点在するため、自然環境は変

化に富んでいて、多くの植物が生育しています。調査の結果、102科698種類の植物が生育していることがわかりました。この中には、全国各地で絶滅が心配されているカヤツリグサ科のダケスゲ、ラン科のキリガミネアサヒラン、ユキノシタ科のヤシャビシヤクなどの種が含まれていて、有峰地域の自然環境が多様で、人間の影響が少なかったことを示しています。



折立遊歩道のブナ林

### 3つの特徴

有峰地域の植物には、富山県内の他の場所と比べ、大きく3つの特徴が見られます。

その一つは、広い面積があるにもかかわらず、外国から入ってきた帰化植物が少ないことです。富山市呉羽丘陵では54種の帰化植物が生育していますが、有峰で見つかったのは19種でした。このこともまた、人の影響が少なかったことを示しています。

二つめは、日本海側に特有の植物が多く生育していることです。アヤメ科のヒオウギアヤメ、キンポウゲ科のシラネアオイ、ツツジ科のイワナシ、ユキノシタ科のホクリクネコノメソウなどは日本海側にかたよって分布する植物で、太平洋側では見られません。全体の植物数に対して、これら日本海側に分布する植物の割合が大きいということは、深い積雪や豊富な雪解け水など、雪の影響を強く受けている場所であることを示しています。

三つめは、富山県内では有峰地区とその周辺で

しか見つかっていない植物が9種もあることです。シダ植物のテバコワラビ、イネ科のヒロハノコヌカグサ、キク科のウスゲタマブキ、ミズギク、ヤナギタンポポ、カエデ科のアサノハカエデ、モクセイ科のシオジ、カバノキ科のシラカンバ、ユリ科のスズラン（絶滅）は、いずれも本州中部では内陸に分布する植物です。

そして、この二つめと三つめの特徴から、「有峰地域は、日本海側の多雪の地域と内陸の少雪の地域との境界に近く、その両方の地域の植物が生育する興味深い地域」であると言えます。



ヒオウギアヤメ



ミズギク

### これからの心配なこと

調査した地域は、大部分が有峰県立自然公園に含まれ、多くの植物が採集禁止になっています。自然公園を利用する時には、その豊かな自然環境のバランスを壊すことのないように気をつけなければなりません。しかし、キノコ採集や植物採集、指定地以外でのキャンプなどが行われたり、道路の大幅な改良によって、人が森林の奥深くへ簡単に入れるようになってきているなど、自然に対する人の影響は大きくなりつつあります。

太田 道人（おおたみちひと）・坂井 奈緒子（さかいなおこ）

## あんな虫こんな虫

### 昆虫がいっぱい

有峰で確認された昆虫類は、約2,700種にのぼり富山県から記録のある昆虫の約半分にもあたります。今回の調査で、初めて有峰から新たに確認された昆虫は約500種、その内約200種は富山県初

記録です。こんなに多くの昆虫が生息していることは、やはり有峰の自然の豊かさを物語るものでしょう。

### ブナやミズナラの森に生きる昆虫

有峰は、山地のブナ帯に属する地域で、昆虫類もそれに対応して、ブナやミズナラの森を生息場所にする昆虫類が中心となります。